

平成 28 年度 第 4 回岐阜市公営企業経営審議会議事録（概要）

日 時 平成 28 年 11 月 14 日（月） 午前 9 時～

場 所 市庁舎高層部 4 階 第 4-1 委員会室

議 事

- ・水道料金のあり方について

出席委員

木村 隆之 会長、長屋 千歳 委員、小堀 将大 委員、谷藤 錦司 委員、
井深 正美 委員、藤吉 一郎 委員、小山 昭久 委員、瀬瀬 晴美 委員、
河野 美佐子 委員、佐々木 和雄 委員

欠席委員

須賀 敦士 委員、内藤 邦雄 委員、山田 英治 委員、入山 信子 委員

会長）

まず、前回の審議で追加説明が必要とされた「有収率」及び「水道料金の債権管理」について、事務局より説明をお願いする。

～資料説明～

有収率について

会長）

質問があれば、ご発言を。

（発言なし）

～資料説明～

水道料金の債権管理について

会長）

質問があれば、ご発言を。

(発言なし)

それでは、本日の審議に入る。事務局から審議資料の説明をお願いします。

～資料説明～

「水道料金のあり方についての答申案」について

会長)

4 ページ上段の有収率について述べているところで、「有収率の向上が図られていくことを強く要請しておく」では語感が弱い。「有収率の向上の確実な進展が図られることを強く求める」とすべき。

5 ページの5行目『「水道料金の今後のあり方』として』は省き、「事業運営を概ね良好に維持できる」は少し曖昧な表現なので、「事業運営を健全に維持できる」という表現にすべき。

(その他発言なし)

それでは、事務局には答申案の手直しをお願いします。答申は、事務局と会長の私とで調整の上、最終決定をすることとしたいが、よろしいか。

(異議なし)

それでは、本日のもう1つの議事である「新水道ビジョン(案)」について、事務局より説明をお願いします。

～資料説明～

新水道ビジョン(案)について

A委員)

アセットマネジメント手法による適切な資産管理について、「中長期的に法定耐用年数を超えた水道施設が増加」とあり、「老朽化対策に必要な財源の確保については前倒し」という説明だったが。

事務局)

前倒しというのは、管の更新目標、平準化ということ。

A委員)

更新の前倒しは、当然それに費用が発生する。先程の答申案の中では、事業計画 10 年間で定めながら、4 年で見直すという話があった。そこの説明をしてほしい。

事務局)

事業の前倒しというのは、特定の時期に多くの事業が集中する状態を回避するために、早く更新すべきものは前に、問題がないものは更新を後へ遅らせることで、平均化、平準化すること。先の審議でお示した事業計画と財政計画はそれを前提に策定していることから、今後 10 年間は大きな問題はないと考えている。今後も同様の考え方で進めていくが、リスクの高いものは、早めに取り組んでいき、平準化に努めつつ、利用者に負担をかけないように進めていきたい。

A委員)

計画的に更新する中で、順列を付けてやっていくということか。

事務局)

そのとおり。

A委員)

福岡市の博多駅前で起きたような事故が岐阜市で発生する恐れはないか。例えば、下水道管の上を水道管が通っていると、漏水があった場合は空間ができてしまい、下水道管が大きいほど水がたまった部分が一齐に流れて、あのような現象が生じるという解説を耳にした。

事務局)

過去、舗装面の下に若干の空洞がある場所は何度か見つかっている。下水から発生する硫化水素によりコンクリートが劣化、すなわち下水道管が老朽化し、そこから土砂が流れ込み空洞ができるような事態が発生していた。

管路のカメラ調査により状況を把握しつつ、発見次第対処しているほか、舗装面が下がっていることを目視で確認した箇所は特に重点的に調査しており、大きな事故は過去に発生していない。

A委員)

福岡市の事故は直前の回避行動で人的被害はなく、また事故も地下鉄工事による岩盤への衝撃により生じたということらしいが、岐阜市であのような事故が発生しては困るので、環状線等の大通りは特に注意して取り組んでほしい。膨大な管路があり心配になるが、今

後の調査も適切に進めてほしい。

B委員)

官民協働について、今後も合理化の取組の中で、慎重かつ前向きに研究や調査を進めてほしい。昨今あらゆる分野で官民協働が進められているが、水道事業の高い公共性から慎重な検討が必要だが、災害時の対応も含め、民間事業者の技術力の維持は、水道事業において非常に重要な課題であり、民間事業者の経営の安定という側面からも、慎重かつ前向きに、バランス良く対応してほしい。

C委員)

ビジョンのほか答申における事業計画や財政計画は、今後10年間を見通したもので、その妥当性も理解しているが、問題はやはりその先で、特に人口減少についてしっかりと認識する必要があると思う。厚労省の新水道ビジョンでも、日本の人口は8,700万人へと3割減り、給水人口4割減るという想定が明記されていることも留意しておいてほしい。

会長)

それでは、本日の議事は全て終了とし、事務局にお返しする。

～次回予定（平成29年1月予定）を案内し、閉会～